



信頼・団結・前進

=新たな時代にさらなる挑戦=

くまもと

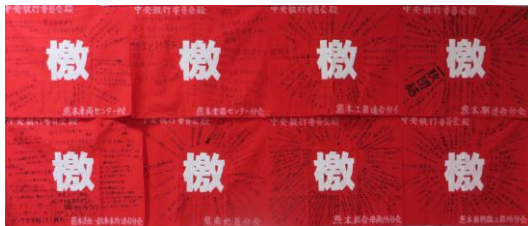
発行 九州旅客鉄道労働組合
熊本地方本部

熊本市中央区南熊本3丁目14番1号
電話 NTT 096-373-8911
JR 094-2345

発行責任者 濱田 享二
編集責任者 井手 正成
教育広報部

年末手当 1.2 ヶ月分で妥結

嘱託再雇用・地域社員（5年未満）に一時金
基準内賃金月額を上限の臨時貸付制度を設定



今年の年末手当交渉で「支給の可否も含めて厳しいものになる」と主張する会社に対し、中央本部は支給月数に拘って取り組んできました。

そして、11月27日に会社から「基準内賃金の1.2ヶ月分を12月11日以降準備でき次第支払う」ことをはじめ、「嘱託再雇用・地域社員（5年未満）への一時金」「基準内賃金月額を上限とする臨時貸付制度の設定」の提案を受け、組合員の生活設計を考慮して席上妥結に至りました。

熊本地本のすべての分会からは中央本部を激励する激布・激励メッセージをいただき、ヤマ場での報告集会にも参集いただきました。新型コロナウイルス感染症や7月豪雨の対応等で奮闘する社員に対し、株主配当とのバランスを考えれば不十分な還元と言わざるを得ませんが、次なる闘いで「倍返し」しようではありませんか。

最後に、この間の交渉を支えていただいたすべての組合員の皆さんに感謝申し上げます。

第二部の座談会は、出席したパネリストが「私たちの民主主義とは？熊本の交通経験から未来を掴め」のテーマで意見を交わしました。熊本地本から吉田祥司書記長がパネリストで出席し、新型コロナウイルス感染症と7月豪雨で危機的状況にあるJR九州の現状と今後取り組む政策課題について提起しています。県民会議では、交通問題

に関するシンポジウムで世論を喚起するとともに、問題解決にむけた関係箇所への申し入れ・協議等を行いながら、利用者のニーズに応じた使いやすい交通システムの構築に取り組んでいくこととしています。熊本地本は、県民会議の取り組みに引き続き参加し、その一翼を担っていきます。

JR連合及び「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」は、11月25日、衆議院第2議員会館にて第16回総会とともに「JR産業に關わる緊急政策課題の解決にむけた決起集会」を開催しました。当日は、国土交通省の上原淳鉄道局長、中央交運協の住野敏彦議長、JR7社の経営幹部を来賓として招き、JR産業の持続的発展と働く仲間の生活や雇用を守るために政・労・使が力を結集する

決意を固めました。また、同日の集会において、この間に取り組んだ緊急政策課題の解決を求める署名の集約状況が報告されました。JR連合全体で22万3525筆が集まり、このうちJR九州労組から1万9155筆（熊本地本から4076筆）が提出されています。集約された署名は関係する省庁への要請行動等の際に届けられるという短き期間にも関わらず署

11月27日、熊本市において国民の足を守る熊本県民会議（以下、県民会議）が主催する「交通問題シンポジウム」が開催されました。シンポジウムは毎年開催されていますが、今年には国鉄分割民営化や高森線（現・南阿蘇鉄道）存続運動などに取り組んだ熊本の経験を未来にどのように引き継いでいくかを中心に議論が展開されました。

交通問題シンポジウム

熊本の経験を次世代に継承 国鉄分割民営化や高森線存続運動から学ぶ

JR産業に關わる緊急政策課題 地本で署名4076筆を集約

名に協力いただいた分会及び退職者連絡会の皆さんをはじめ、熊本県平和センターや連合熊本の構成組織等の皆様方に改めて御礼申し上げます。

地本執行部と青・女が意見交換

11月25日、熊本市「くまもと森都心プラザ」で今年度の親子対話を開催しました。この取り組みは、地本執行部と青年・女性委員会（以下、青・女）の意見交換を通じて、組織と運動の活性化を図る目的で企画したものです。意見交換では青・女から「給料明細書の学習会をしたい」という積極的な発言も飛び出すなど、終始和やかな雰囲気で行われました。今後とも継続した取り組みとして開催していきます。



くまモンと一緒に新しい生活スタイルを！

手洗い！
距離！
換気！

手を洗うモン #WashHands
くっつかないモン #KeepDistance
換気をするモン #OpenWindow

©2020 熊本県観光課 くまモン